

## [成果情報名]ダリア冬春切り栽培における適品種の早晩性と不適品種

[要約]冬春切り栽培におけるダリア品種の早晩性は、11月上～中旬に挿し芽苗を定植し、10℃加温、14.5時間日長条件で栽培した1番花の到花日数により区分できる。奈良県内在来の90品種では、「黒蝶」、「祭ばやし」等42品種が冬春切り栽培に適する。

[キーワード]挿し芽苗、早晩性、ダリア、品種、冬春切り栽培

[研究所名]奈良農総セ・研究開発部・花き栽培チーム

[代表連絡先]電話 0744-22-6201

[区分]近畿中国四国農業・花き

[分類]技術・普及

---

### [背景・ねらい]

奈良県の特産花きであるダリアは、従来、露地夏秋切り栽培が主作型であるが、近年は挿し芽苗を用いた冬春期の生産が伸びている。一方、我が国のダリア品種は、冷涼地の夏秋切り栽培で育成されたものが多く、冬春切り栽培での適性は検証されていない。そこで、挿し芽苗を用いた冬春切り栽培での開花の早晩性についての指標を明らかにするとともに、低温開花性と切り花品質に優れたダリア品種を選定する。

### [成果の内容・特徴]

1. ダリア品種の早晩性は、10℃加温、14.5時間日長条件での1番花の摘心後開花日数を指標とし、早晩性区分の目安となる基準品種との比較によって、早生、中生、晩生および極晩生に区分できる(図1、図2、表1)。
2. 早生品種ほど開花サイクルが短く、総収穫本数も多い(図1)。
3. 1番花の開花日数と開花節位には正の相関があり、早生品種ほど開花節位が低い(図2)。
4. 冬春切り栽培で発生しやすい切り花品質面での問題点として、露心花、茎の軟弱化、総包片が柳葉となる奇形花がある。これらが多発する品種は冬春切り栽培には不適である(表1)。
5. 奈良県内在来のダリア90品種の比較試験では、在来品種は収量性に劣る極晩生を除く早生～晩生に分類され、上記の奇形花が発生しにくい「黒蝶」、「祭ばやし」等42品種が冬春切り栽培の適品種といえる(表1)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 挿し穂は、発根と初期生育の優れるメリクロン由来株から採取することが望ましい。
2. 育苗は定植3週間前に128穴セルトレイを用いて挿し芽し、15℃加温、深夜5時間の暗期中断電照下で管理する。
3. 本圃での日長処理は75W白熱灯を7m<sup>2</sup>あたり1灯配置し、期間は定植から4月下旬までとする。
4. 14.5時間より長い日長や暗期中断では開花日数が増加する。13時間以下の日長では地上部の生育が停滞し、露心花やブラインドが多発する。
5. 15℃加温では開花日数が短くなるものの、開花揃いが悪くなり、茎が軟弱化する。

[具体的データ]

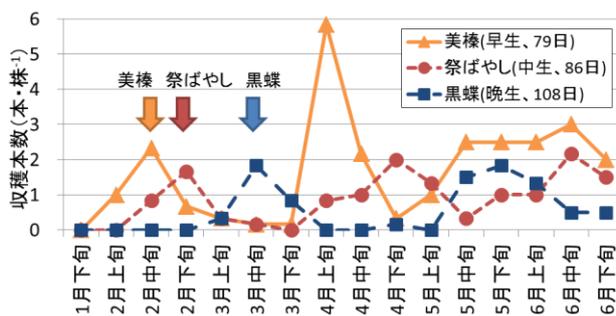


図1 基準品種の時期別収穫本数(2011)

凡例の( )は早晩性区分および1番花の到花日数  
 図中の矢印は各品種の1番花のピークを示す  
 2010年11月12日定植、30日摘心、14.5時間日長、  
 10℃加温、25℃換気で管理

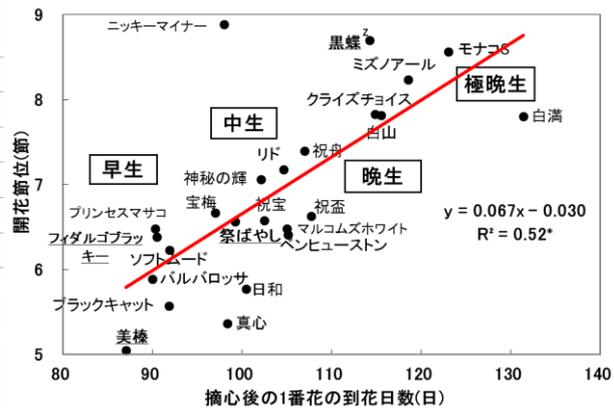


図2 1番花の到花日数と開花節位の関係(2009)

2008年11月10日定植、26日摘心、14.5時間日長、  
 10℃加温、25℃換気で管理  
 z)下線は基準品種  
 \*1%で有意差あり

表1 ダリアの冬春切り栽培適品種の早晩性区分と不適品種(2008~2011)

適性	早晩性/ 不適原因	品種名
適	早生	早 美榛 <sup>z)</sup> 、ダイヤモンドダスト、濃紫、小舟、ムーンワルツ、ベルベット、プリンセスマサコ
		晩 ファイダルゴブラッキー、蓬萊、ハミルトンリリアン、ポンポンショコラ、榛原の里、ニッキーマイナー、真心、和気、朱光
	中生	早 祭ばやし、パールライト、ミッチャン、球宴、天真、雪国、美月、熱唱
		晩 純愛の君、アジタート、朱宝、日和、祝宝、リド、ベンヒューストーン、恋祭り、結納、新雪
	晩生	早 かまくら、希望、エオナーG、いとご
		晩 黒蝶、銀映、麗日、クララヒューストーン
不適	露心花	ブラックキャット、大正浪漫、白陽、白鳳、曙、房総乙女、ミスヤタキ、他
	奇形花	祝歌、桜小町、榛原の華、他
	軟弱茎	バルバロッサ、マジックモメント、ジャパニーズビショップ、アリス、他
	短茎	銀嶺、麦秋、ル・クロッコ、黎明、光炎、他
	極晩生	ミズノアール、モナコS、白満、セクシーポーズ、ショーンテル、迎春、他

11月上~中旬定植、14.5時間日長、10℃加温、25℃換気で管理

z)下線は基準品種を示し、各基準品種を境界に早生、中生、晩生を、また、各々についてさらに早・晩を区分する

(角川由加)

[その他]

研究課題名：切り花ダリア周年生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007~2011年度

研究担当者：角川由加、仲照史、藤井祐子、廣岡健司、前田茂一